

令和 5 年度冬季防災（火災）避難訓練・自衛隊による防災指導・応急手当実習

3月5日（火）3・4時間目 第1・2学年

火災を想定した避難訓練を実施しました。その後、自衛隊による防災指導・応急手当実習を行いました。

火災は和親会館1F（食堂）を出火場所と想定し、火災報知機がなる中で、生徒は指示を聞き素早く体育館まで避難しました。いつ・どこで火災は起こるかわかりません。訓練ではなく、実際に起きた時、迅速に行動・対応できるよう、日々意識して生活することが必要です。

体育館では自衛隊の方々10名にご来校いただき、講話や防災指導・応急手当の実習をしていただきました。

阪神淡路大震災の動画には、壮絶な震災現場の様子と、被災地に出向き活動される自衛隊員の方々の様子が映されていました。実習では、「固定」・「止血」・「担架」・「見学」の4グループに分かれ、各クラスの代表者を中心に身の回りのものを使った災害時の応急手当を実習しました。手当をする際の注意点や怪我をした人への配慮など、現場を想定した実習となりました。また、災害時に自衛隊の方々が持参されるリュックの中身には珍しいものもあり、実際に手に取り観察することができました。

講話では、自衛隊が所有するたくさんの物品や機材によって、災害時に救助する側の者の生活を自己完結させながら被災地の支援が出来るようになっているのだと教えていただきました。そして、「様々な困難への対処法をいくつも身に付け想定しておき、災害など緊急時にそれをすぐに実践できるように備えておくことが防災である。」とのことでした。今回の実習内容を対処法の1つとして頭に留めておきたいです。

